



2026年4月1日

## イラン空爆

公益財団法人 国際通貨研究所  
理事長 浅川 雅嗣

2月28日から、米国とイスラエルのイランに対する軍事作戦が始まりました。イランも反撃し、イスラエルの諸都市や、湾岸諸国の米軍の軍事施設やエネルギー関連施設、民間インフラ等に対する報復攻撃を行っており、ホルムズ海峡も事実上封鎖されました。マーケットは即座に反応し、原油・ガス先物価格は高騰し、世界の株式市場は下落し、円は売られました。世界的にインフレ懸念が高まり、軍事作戦がどのくらい続くかによっては、経済成長に対する下押しの影響が強く心配されます。

今回よく理解できなかったのは、そもそも米国がこの作戦を始めた目的です。イランの核兵器開発の阻止が目的の一つであったことは明らかなとしても、それに加えて、ミサイル等軍事施設の破壊が目的なのか、さらにはイランの体制転覆まで視野に入っていたのでしょうか。言葉を替えて言えば、何が達成されたら米国は停戦するつもりだったのでしょか。そうした中で、一つはっきりしているのは、イスラエルとトランプ大統領との間には戦闘目的に関して相応のギャップがありそうだということです。今後建国250周年記念、中間選挙と、重要な国内イベントを控えているトランプ大統領にとって、ガソリン価格の高騰や株価の一層の下落は避けたいはずですから、戦闘の長期化は望んでおられないでしょう。現段階で出口はなかなか見えませんが、今後米国とイスラエルとの意思疎通がスムーズに行われ、一刻も早く停戦が実現することを期待したいと思います。

他方、仮に戦闘が長期化した場合、地政学上懸念されるのは、米国の軍事、政治、外交上のリソースが、極東地域から中東地域にシフトし、極東地域に力の空白地帯が生まれることです。パワーバランスが崩れることによって、この地域にいかなる変化が生じるのか、それに対してどういう対応をすべきか、日本としても中長期的な観点からよくよく考えておくべき点だと思います。なお、現在イラン制裁の影響もあって、イラン原油の8~9割が中国に輸出されています。イランと中国との関係は、今後一層深まっていくものと思われます。

もう一点、日本は言うまでもなくエネルギーの大輸入国であり、かつ海上輸送に全面的に依存しており、中東への依存度は原油の場合9割にもなります。特にホルムズ海峡の船舶の安全な航行は、日本の原油輸入にとって死活的に重要ですし、トランプ大統領からも相応の貢献を求められています。しかしながら、そのために海上自衛隊の艦船が戦闘地域である同海峡に直接入って、イランを相手に何らかのオペレーションを行うこ

とは、今回の米国の軍事行動が国際法に違反していないとの判断が前提となることをはじめ、法律的にもかなりハードルが高いものと思われます。他方、停戦が実現すれば、日本として行える貢献は機雷除去を含めいくつか具体的に考えられます。その面からもあらゆる機会をとらえて、戦闘の早期終結をトランプ大統領に働きかけていくことは重要でしょう。戦闘の早期終結が望ましいことでは、日米の利害は一致しているのです。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2026 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>